確かな学力の育成
ー　基礎・基本を身に付け、意欲を高めるための指導の工夫　ー

秩父市立高篠中学校

1　テーマ設定の経緯

生徒の多くは、落ち着いた雰囲気の中で学習や部活動、学校行事等に取り組んでいる。本校の特色である「一流のあいさつ」は、来校した方達から高い評価を得ている。

落ち着いた静かな態度で学習や行事等に取り組むことができるようになった今こそ、一人でも多くの生徒に、「わかる」という満足感、「できる」という充実感を抱かせたい。

「わかる授業」「できる授業」を構築し、確かな学力を育成するために、教授法の鍛錬に努め、手立てを講じている。加えて、特別な支援を要する生徒の理解を、科学的根拠をもとに見定め、一人ひとりの教師が的確な指導ができる実践力を高めることを第一義に、教職員一同研鑽に努めている。

2　「確かな学力の育成」に向けての取組

「学力・体力研究部」「規律ある態度研究部」「小中連携研究部」を組織し、具体的な研究・実践を続けてきた。以下に、本校の研修の主たるものを簡単に紹介する。

（1）授業力向上研修の実践

「特別に支援を要する生徒にやさしい（優しい・易しい）授業は、すべての生徒にやさしい（優しい・易しい）授業である。」という理念のもと、「わかる授業」「できる授業」を構築していくためにはどうしたらよいか、何をしていけばよいかを研究し、実践を続けてきた。本校では、教師役と生徒役の役割を分担した模擬授業を研究の柱として、その授業の良い点や改善すべき点をお互いに協議することで、スキルアップを図っている。

＜校内授業研究会の様子＞

授業をする視点・見る視点は以下のとおりである。

ア　指示を出すときは、一つずつ簡潔に出している。

生徒が落ち着きのない態度を示したり、授業に参加しないのは、それらの生徒が、教師の発問や指示を覚えながら、考えて挙手したり、課題を遂行したりすることが難しいためである。複数の指示を出さずに、一つの指示を出すと分かりやすい。

イ　無駄な言葉がない。

話の長い説明をする教師がいる。一つの言葉が長いので、生徒は集中できない。一つの話で一つのことを述べていく。簡潔に述べると、生徒は聞くようになる。言っていることが分かれば、活動も早くなる。

ウ　一目でわかる工夫をしている。

ジェスチャー、板書、資料、プレゼンテーションソフト等を活用し、聴覚情報だけでなく、視覚からも情報を入力できるように工夫する。

エ　リズム＆テンポがある。

リズムは「緩急」「強弱」である。テンポは「速い」「遅い」である。これらがダイナミックに、それでいて緻密に変化していく授業は、受けていてきわめて快適である。

オ　発問　指示が明確であり、しかも全員に伝えている。

発問→作業指示→活動→評価・評定のサイクルで授業が展開されている。大切なことを話すときは、全員に注目させている。

カ　空白の時間を作らない。

作業を終えた生徒にも、遅い生徒にも配慮がある。終わった後の発展課題を用意しておくことも必要である。

キ　指導の途中で何度か達成度の確認をしている。

机間指導がただの散歩であってはならない。生徒一人ひとりと視線が合っている。個々の作業の進行状況を常に把握している。

ク　指導内容の配列に必然性がある。

「わかる喜び」「できる喜び」を味わえる授業の組み立てがなされている。なぜ、その順番で問うのか。なぜその順序で資料を提示するのか。すべてを説明できる。

ケ　目標に準拠した評価を活用している。

生徒一人ひとりの進歩の状況や、教科の目標の実現状況を適切に把握する。評価によって、後どれだけやればよいのか。どうすればうまくいくのかを生徒がわかっている。「できるようにするための評価」を意識して活用している。

コ　常に全員を励ましている。

皮肉を言わない。肯定的な言葉で活動を促している。

（２）授業規律や生活規律などの共通行動の実践

生徒の自治活動を促進させ、校内の規律の徹底に努めている。教師主導ではなく、生徒が問題意識を持ち、主体的に改善していく方策と実践力を高めてきた。

ア　全校共通指導事項の徹底

「時刻を守る」「身の回りの整理整頓をする」「進んであいさつや返事をする」「ていねいな言葉づかいを身に付ける」「学習のきまりを守る」「生活のきまりを守る」「一流のあいさつを身に付ける」の７項目を全校共通指導事項とし、生徒の指導・支援及び評価活動を行った。

特に、授業規律として、「チャイムと同時に始まる授業」「学習用具がそろう授業」「生徒が姿勢を正し、集中して取り組む授業」の３点を徹底して行うことで、生徒は落ち着いた態度で授業に臨むことができている。

イ　道徳教育や特別活動を通しての規律ある態度の育成

各学年で共通認識のもと、規律ある態度に関する内容の道徳及び学級活動の授業を計画的に行ってきた。

（３）小学校との連携による実践

児童生徒の発達段階を踏まえた共通認識を持って、９年間を見据えた学習指導に当たるよう推進してきた。

ア　中１ギャップを解消するための取組

小学校６年生に対して、「体験授業」「部活動見学」を実施した。また、児童の不安や悩みを和らげるために、生徒会本部が中心となって、生徒会新聞『もうすぐ中学生号』を発行した。

イ　教員やさわやか相談員、スクールカウンセラー等が小学校を訪問し、授業参観や情報交換等を行った。

３　まとめ

平成 20 年から、一貫して「確かな学力の育成」をテーマに校内研修を継続している。「真剣に授業に取り組み、継続的に学習し、学力向上を目指す生徒」（本校の目指す生徒像）には、「質の高い教育を提供できる教師」（本校の目指す教師像）が必要不可欠である。

学校が落ち着いている今だからこそ、さらに質の高い授業を展開し、「確かな学力」を身に付けさせることが肝要である。

（担当　教諭　内藤将智）

個に応じたわかりやすい授業の創造
～基礎・基本を定着させ、意欲的に取り組む授業の展開～

秩父市立大田中学校

１　研究テーマについて

本校の生徒は、少人数であるが部活動や学習などに積極的に取り組んでいる。しかし、小学校の時から同じ集団であるため人間関係が固定化し、学習順位の変動が少なく、競争心に欠けたり、家庭学習が不十分な生徒が学習不足のまま過ごしてしまうことも見受けられる。そこで、本校のめざす生徒像「自ら意欲的に学び」を具現化するため、今年度も研究テーマを「個に応じたわかりやすい授業の創造」とし、 ~基礎・基本を定着させ、意欲的に取り組む授業の展開~のサブタイトルをつけ、継続研究を行うこととした。本年度は、大田小学校との連携、全教職員の授業公開に加え、ライフスキル教育の授業実践と指導法の研修に全教師で取り組んだ。

２　具体的な取組

（１）全教科・全教師によるわかりやすい授業の実践と授業公開（指導力の向上・授業改善）

授業の流れが理解しやすく、誰にでもわかりやすい授業を目指し、全教科でユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実践し公開した。具体的には次のようなポイントを心がけた。

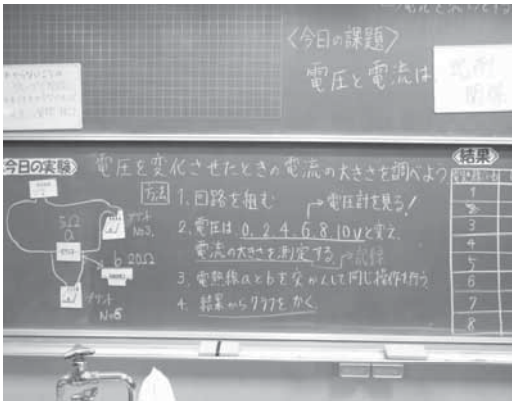
①どの子にもわかりやすい板書を心がけ提示する。色チョークを効果的に使い、生徒に色分けをしてノートをとらせる。（板書をわかりやすくする）

②子ども同士の学び合いやペア学習を取り入れる。（様々な活動を取り入れる）

③発問をわかりやすくする。指示を工夫する。

これらの取組を継続的に学校全体で実践し相互参観した。

【学習の流れがわかる板書の工夫】



【全教師の授業公開実施計画】

月　日	教　科	単　元　名	指導法の工夫・本時のねらい等
6／9	数　学 3年1組	平方根	・素因数分解できるようにする。
7／7	英　語 1年1組	Lesson 3	・スピーチを取り入れたコミュニケ-ション活動
	音　楽 2年1組	旋律と歌詞から曲想を味わおう	・板書の工夫。感想カードで学習内容が振り替えれるようにさせる。
9／1	保健体育 2年1組	マット運動	・前転・後転をわかりやすく理解させ、それを応用して活動させる。
12／8	理　科 2年1組	電圧と電流	・電圧と電流の関係を実験を通して確かめる。
	国　語 2年1組	活用のある自立語	・グループやペア学習で動詞の活用形と活用の種類を理解させる。
11／17 要請訪問	総　合 1年1組	ライフスキル 本当の自信	・本当の自信について「聞いてる？」を行う。話を聞くことの効果と話を聞かないことが話し手の自信に与える影響を考えさせる。
1／19	技　術 3年1組	WEBページの制作	・簡単なHTML言語を知り、WEBページを制作する。

授業力の向上を目指す観点から全教師による授業公開を実施し、授業を相互参観した。授業のポイントや見てほしい内容を事前に「ここ見てシート」に示し、参観者は評価用紙に記入し授業者に提出した。また、校内研修全体会では意見交換を行い、授業改善、指導力の向上を図った。若い教師は授業参観を望んでおり、積極的に経験豊富なベテラン教師の授業を参観することにより指導法の工夫・改善へのきっかけとした。社会性チェックリストを活用した個に応じた指導の実践を心がけた。

【個別指導を取り入れた授業】　　【グループ活動を取り入れた授業】

（２）家庭学習の促進（生徒のよさを認め、伸ばす指導）

生徒の家庭学習の状況や授業の理解度を測るため、学習アンケートを実施し、実態を把握した。また、生徒の基礎学力・学習意欲の向上を目指すため「学習シラバス」を各教科で作成し、ＰＴＡ保護者会において紹介し、家庭での協力を求めた。授業ノートを家庭で復習に活用させ、授業者や担任は宿題や家庭学習自学ノートの点検や家庭学習をマラソン競走に見立てて継続的に取り組む家庭学習マラソンで定着化を図った。

（３）ライフスキル教育の研修

大田小・中学校の教職員が合同でライフスキル教育の研修を夏季休業中に行った。小・中学校の要請訪問にそれぞれの教師が授業参観し、研究協議に参加した。中学校ではライフスキル教育の授業を公開し、年間指導計画（指導可能なプログラム）についての研修を行った。要請訪問ではワークショップ型の研修を実施し活発な意見交換を行った。

【ライフスキル教育の授業】

【授業参観後の情報交換会と分析】

３　成果と課題

（１）教師がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業について研修することで教材研究が活発になり授業が改善されつつある。今後もどの生徒にもわかりやすいユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善と生徒一人一人の社会性スキルの向上を図る必要がある。

（２）学習アンケートで生徒の実態を把握し、全国学力・学習状況調査の結果の分析を進めることで授業の課題を見つけた。全学年で学力テストを定期的に実施した。３年生では、希望者に放課後学習会（数学・英語）を週２回実施した。今後、学習シラバスを積極的に活用させ、家庭学習マラソンを生徒学習委員会の活動として軌道に乗せることが課題である。

（３）ライフスキル教育の研修により全職員がプログラムの概略をつかむことができた。今後も小・中学校の連携をさらに充実させ、系統的な年間指導計画を策定し、授業実践を進める。

（担当　主幹教諭　大沼修一）

考え、話し合い、学び合う学習の推進

秩父市立影森中学校

１　はじめに

激しい変化を続ける現代社会において、学校は、今以上に社会・家庭からの多様な要望に応えていかねばならない。公教育機関として、児童・生徒に基礎基本を徹底させ生きる力を育むことが、学校の使命である。

第２期埼玉県教育振興基本計画においても、最重要課題として子供たちが「主体的、創造的に生き抜いていくためには基礎的基本的な知識や技能の確実な習得が不可欠」とある。

また、学んだ知識や技能を様々な場面で活用し、課題解決を図るために必要な「思考力」「判断力」「表現力」を含めた学力と主体的に学ぼうとする態度を身につける必要がある。

本校においても、これらの変化に敏感に、しかも、しなやかに対応し生き抜く力を身につけさせていくよう取り組んでいる。そして教育活動を進める中で、「種を蒔き、水をやり、しっかり見届ける」ことで、生徒一人一人が夢と希望を語り向上心を持って生き生きと活動する学校を目指している。この基本理念の下、今年度から３年間埼玉県教育委員会から指定を受けた「考え、話し合い、学び合う学習」の推進を図るべく、全教職員一丸となって研修に励んだ初年度であった。

２　本研究の概要

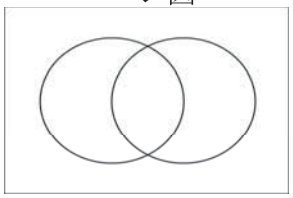
『「考え、話し合い、学び合う学習」（単元全体や１時間ごとの授業）の中で学習への主体性、思考力・判断力・表現力等の育成や学習内容の確実な定着を図る』ことを目標としている。

見通す（導入）		取り組む（展開）		振り返る（終末）
・学習課題の把握 ・結果の見通し ・解決（方法）の見通し ・学習参加の見通し	⇒	・学習の活動/方法/形態 ・考える ・話し合う ・学び合う	⇒	・学習内容のとらえ直し ・学び方のとらえ直し ・学びの診断 ・学びの実態

児童生徒の発達の段階や学習内容に合わせ、「考え、まとめる工夫」「話し合い、学び合う工夫」を組み合わせて相互に関連させて、指導の改善を図る。

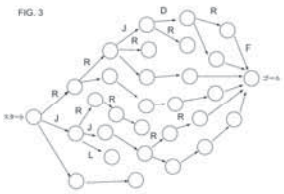
（１）　考え、まとめる工夫

ベン図

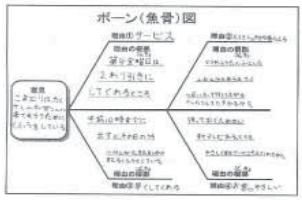


Ｘチャート

概念マップ



お魚ボーン図　etc



クリーニング店を見学したＡ児のボーン図

（２）　話し合い、学び合う工夫

ペア学習　グループ学習　一斉学習 MD 法　パネルディスカッション　ディベート　ジグソー法　etc

３　本研究の基本理念

（１）　思考力・判断力・表現力の育成

互いの考えを伝え合うことを苦手としている児童生徒が多いことに課題がある。互いの考えを伝えあい、自分の考えを深められるような学び合いの学習をすることで、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。

（２）　コミュニケーション能力の育成と集団力の向上

調査結果や日頃の観察から、人間関係づくりが苦手で、共同学習をやりたがらないという課題がある。対人関係を学ばせるとともに、落ち着いて学習できる学年・学級集団を育てる。

（３）　学習内容の確実な定着

学び方がよくわからず、基礎学力が定着していないという課題がある。様々な学習方法や思考ツールを活用して、学び合わせることで、学習意欲の向上を図り、基礎的な知識・技能を身に付けさせる。

４　実践報告（授業実践を中心に）

平成２６年　８月　８日（金）
「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業
第１回影森地区小中合同研修会
　影森小、久那小、影森中の影森地区３校合同研修会を行い、本研究のポイントや手法、思考ツールについて本校研究主任の金子教諭が説明した。また質疑応答及び意見交換を行い、手法等がどの教科、どの場面で活用できるかを協議した。
　秩父市教育委員会　指導主事　栃木法雄先生、新井章弘先生に「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業の進め方についてご指導いただいた。

平成２６年１０月２３日（木）
第１回要請訪問　　数学　石井　匡樹　教諭
　１年Ｂ組において研究授業を行った。既習事項を活用し課題解決を図る内容であった。学習形態としてペア学習、思考ツールとしてＨｏｗツリーを用いた。影森小、久那小、原谷小からも先生方が本授業を参観していただいた。その後、研究協議にも参加していただき、意見交換を行った。秩父市教育委員会　指導主事　新井章弘先生から「学び合いを促す５１の工夫」の資料を基に、今後の本研究の取り組みについてご指導いただいた。

平成２６年１０月２７日（月）
影森小学校　第２回授業研究会
　研究推進委員の金子、笠越、飛川の３名で４年生の理科の授業を参観した。
　グループ学習や思考ツールとしての実験用具の絵の枠が書かれたワークシートが用いられた。子供たちの活発な意見交換・発表が印象的であった。また、思考ツールにしっかりと自分たちの考えがまとめられていた。
　授業後の研究協議では、埼玉大学教育学部教授　清水　誠先生から「考え、話し合い、学び合う学習をつくる」についてご講義いただいた。

平成２６年１２月　２日（火）
初任者研修　研究授業　　学活　坂本　裕樹　教諭
　２年Ｂ組において初任者研修研究授業を行った。学活でライフスキル「責任を持つようになる方法を学ぶ」について学習した。学習形態としてはジグソー法を用い、３つの事例についてグループで話し合った後、グループの再構築を行い各事例について自分の意見の発表とまとめを行った。思考ツールとして矢印（対比）、囲み（まとめる）、マトリックス（まとめる）ワークシートを用いた。

平成２６年１２月　５日（金）
「私の授業を見に来てください」（校内公開授業）
　　理科　金子美智雄　教諭
　２年Ｃ組において校内研修の一環である「私の授業を見に来てください」を行った。理科「電気の世界　豆電球の抵抗を求める」について学習した。学習形態としてはジグソー法を用い、「何を測定すればよいか」「どのような回路を作ればよいか」「どのような器具を用いればよいか」について少人数でエキスパート活動を行い、その後ジグソー活動で課題の解決を図った。思考ツールとしてステップチャートを用いた。

５　成果と課題

　研究指定初年度ということもあり、当初は思考ツールを取り入れた授業づくりに教職員の戸惑いが感じられた。しかし、初任者教員が率先して思考ツールを授業に取り入れ、２年目の教員が要請訪問で授業形態の工夫を凝らすなど若い教員が率先して取り組むことで、全体に積極的に取り組む雰囲気が醸成されつつある。思考力・判断力・表現力等の育成の意識が高まり、より効果的な学習形態や思考ツールの活用が図られている。今後も教職員が研究修養し、思考力・判断力・表現力等の育成の意識をより高めていく必要がある。今後もいろいろな教科領域の授業実践を行うことで、より効果的な学習形態や思考ツールを探究するための実践を積んでいく必要がある。同時に、児童生徒が他者と協力して学習に取り組み、学校行事や学年・学級活動に協力して主体的に取り組み、よりよい集団づくりができるよう学年学級での指導が求められる。
（担当　教諭　飛川成正）

基礎学力・学習意欲の向上を目指し、
互いに高め合う生徒の育成
～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫～

秩父市立吉田中学校

１　研究テーマについて

本校の生徒は明るく純朴で、部活動や地域文化の継承に積極的に取り組み、９割近くが学校が楽しいと感じている。一方、家庭学習習慣が身に付いている生徒は少なく、基礎的な学力に不安を感じる生徒も多い。基礎学力が十分でないことが、学習意欲の維持や自主的・主体的な学習参加を阻み、学力向上を阻害するという負のサイクルに陥る生徒を生み出す要因ともなっている。学力向上と家庭学習習慣の定着は本校の二大課題である。

この本校の課題と学校教育目標「学び、鍛え、高め合う生徒の育成」に鑑み、本年度も研究テーマを「基礎学力・学習意欲の向上を目指し、互いに高め合う生徒の育成」とし、具体的方策として、昨年来の、ユニバーサルデザイン（以下ＵＤ）の視点を取り入れた授業の工夫・改善に全教師で取り組むこととした。この研究を通して、生徒の学習参加を促し、分かる喜び・達成感が味わえる授業の創造と、学習習慣の形成、それらを通した確かな学力の育成を目指す。

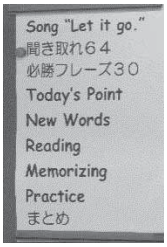
２　具体的な取組

課題である「学力向上と家庭学習の定着」を図るため、研究組織をＵＤの視点を取り入れた授業について研究する「学力向上部会」と家庭学習習慣の定着や校外との連携について研究する「学習習慣定着部会」に分けて取り組んだ。

（１）ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫

昨年来の、①ねらいや流れの明確化、②わかりやすい板書、③様々な学習形態の導入、④発問指示の工夫を深化させ、焦点化、視覚化、共有化に関する指導改善に努め、特に今年度は重点的に「視覚化」の視点に取り組んだ。「本時の課題」から「本時のまとめ」「わかったこと」までの過程の、提示資料の工夫や生徒発表資料の活用なども含め、板書の工夫・構造化を図るために、目標や課題の焦点化に努めた。さらに、新しい学習手法を研究導入するとともに、課題解決の共有化の場面の確保・深化を図った。

【板書の工夫・構造化】　**【ジグソー法の手法を用いた授業】**　**【共有化～学びを深める】**



本時の流れ今は…

←ポスターセッションで学んだ成果を班員に説明

クロストークで深める→

課題、資料も含めた板書の構造化
生徒の作成資料や課題について考えを交流し、高めあった結果も黒板に

学び合いを通して自他の有用性に気づく

（２）全教師による授業公開

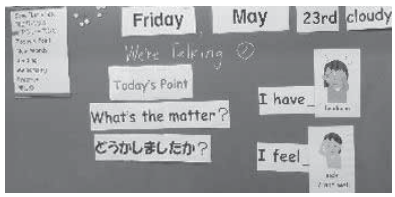
今年度も全教師がＵＤの視点を取り入れた授業公開を実施し、授業を相互に参観した。

【全教師がUD化授業を公開】

5月20日	要請訪問（英語科）
6月6日	授業公開（社会科）
7月15日	授業公開（保健指導）
10月14日	県保健体育課学校訪問
11月 7日	授業公開（数学科）
11月10日	授業公開（英語科）
11月20日	食育授業研究会栄養教諭
11月26日	要請訪問（国語科）
12月5日	北部技術家庭科授業研究会
	授業公開（社会科）
12日	授業公開（道徳）
15日	授業公開（英語・国語）
1月14日	授業公開（数学科）
1月22日	授業公開（音楽科）

また、授業評価シートを改善すると共に、視覚化、特に板書の工夫の研究を深めるために、公開授業の終了時に板書を撮影、ファイル、公開し、内容の構造化も合わせて、授業改善と指導力の向上を図った。

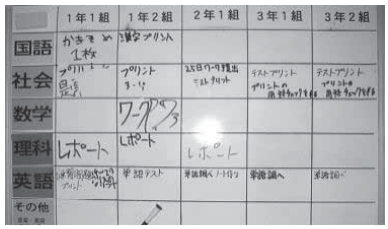
【視覚化】板書の工夫



（３）家庭学習習慣の定着化に向けて

実態把握と改善への援助に向け、学習計画表と実践記録をつけさせた。さらに昇降口に内容と目安時間が記載された「宿題ボード」を設置し、宿題の出題状況を生徒・教職員共に把握できるようにし、適切な量と質の宿題提示が出せるように工夫した。

【宿題ボード】宿題の見える化



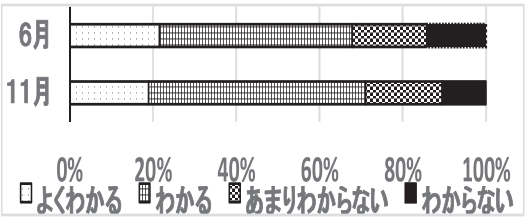
（４）小中高との連携

「自立し、社会に貢献できる吉田っ子」という幼保・小・中・家庭も巻き込んだ共通指導方針を策定し、二大課題の解決に取り組んでいる。テスト期間中は「小中共通レベルアップ家庭学習期間」とし、家庭に協力を求めた。授業公開、情報交換も継続して行っている。小学校には英語・保体や音楽の教師が出向き、ティームティーチング等を行った。また、定期的に高校の英語教師とのティームティーチングも行っている。

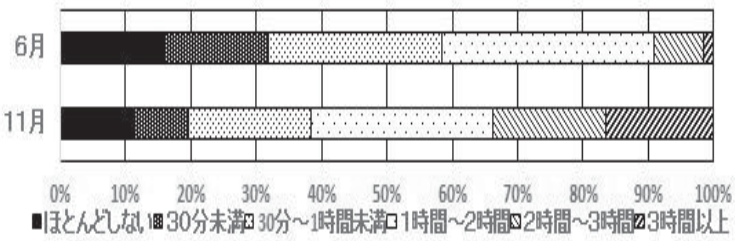
３　成果と課題

（１）６月と１１月に全校生徒を対象に行った学習アンケートの結果からは、授業が「わかる」と感じている生徒の増加や、家庭学習時間の大幅増加等、日々の教師集団の研究・実践の成果が具体的数値となって現れてきている。

「わかる」の増加
（「わかる・よくわかる」が71.1%）



家庭学習時間大幅増加（2/3は「1～２時間」以上）



今後さらに実効性のある学力向上のための検証改善サイクルの確立に努めていきたい。

（２）理解、習得から活用に向け、思考力・表現力等を伸ばすために、話し合い活動の工夫やジグソー法等多様な学習形態を試みてきたが、「共有化」については課題が残った。「話す力」「伝える力」は「未来を拓く『学び』」に必要不可欠な力と考える。自己肯定感の高揚や学習集団の質の向上と合わせ、指導方法の工夫・改善に努めたい。

（３）学校間の連携や吉田地区の子どもを系統的に育てるための支援体制が整いつつある。効果的に機能するよう図ると共に、さらに家庭との連携強化に努めたい。

（担当　教諭　大谷恵子）